

理事長 依田哲也

社会連携・広報委員会委員長 羽毛田 匡

News Letter No. 19

今回は 2023 年 10 月 20 日（金）～21 日（土）に行われた第 7 回アジア顎関節学会について、社会医療法人恵佑会札幌病院 矯正歯科の梶井貴史先生に報告していただきます。

第 7 回アジア顎関節学会

2023 年 10 月 20 日（金）～21 日（土）

Four Points By Sheraton Beijing, Haidian で開催

中国北京市で開催された、第 7 回アジア顎関節学会に参加した。アジア顎関節学術大会は 2 年に一度、韓国、日本、中国、フィリピンの持ち回りで開催されており、第 7 回学会は本来なら 2 年前の 2021 年に開催される予定であったが、コロナ禍のために今年まで延期されていたとのことであった。

学会には、ホストである中国からの大勢の参加者に加え、韓国からの参加者が目立っていた。日本からの参加者は高橋哲 前副理事長、特別講演者である島田明子先生と野上晋之介先生、そして私の 4 名のみと、やや少数の一行であった。



写真 1 第 7 回アジア顎関節学会の会場内での参加者集合写真

最前列、中央テーブル真ん中の向かって右に中国の元会長である Dr. Xu-Chen Ma、左に韓国の元会長である Dr. Hoon Chung、中央テーブル右端に大会長の中国の Dr. Kai-Yuan Fu、右テーブル左端に日本の高橋前副理事長、隣に次期大会長のフィリピンの Dr. Sheila Ortega-Cobcobo。

今回、日本からの参加者が少なかった一因に、Visa 取得の必要性が挙げられる。従来、日本人の中国への 15 日間以内の滞在に対しては、中国は Visa 免除措置をとっていたが、今年の 3 月から 15 日間以内の滞在に対しても Visa 取得が要求されるようになった。



Visa 申請は日本国内の中国領事館にて行うのだが、申請が通るまで膨大な書類記載と審査期間とがかかり、私の Visa 発行は渡航数日前に何とか間に合った次第であった。昨今の日中関係を鑑みると止むを得ないのかと思われるが、残念な状況である。

写真 2 左より私、島田先生、高橋先生、野上先生

学会では活発な質疑討論が行われ、また懇親会も行われ、盛会のうちに閉会となった。今回の学会参加を通じて最も感じたことは、中国と韓国からの口演内容（下図）は、臨床・研究ともに卓越したものが多く、かつてのそれとは明らかに異なることである。また演者のほとんどは若手であった。

コロナ禍以前に参加した矯正歯科関連や基礎分野関連のアジア規模の国際学会でも、中国と韓国からの臨床演題には aggressive なものが既によく見受けられた。しかし今回の学会では、日本のかつての advantage だった基礎研究演題の質・量においても、両国に追いつかれているところか、追い抜かれている印象すら抱き、危機感を感じた。

このような現状は、国際学会に参加してライブで体感しないと、なかなか実感が湧かないと思われる。日本顎関節学会会員の皆様には、この現状をぜひ知っていただきたいと深く感じた次第である。

14:10-14:20	主題: Prolotherapy with Hypertonic Dextrose injection: A promising Approach for Temporomandibular Dysfunction treatment	发言嘉宾:	Jun-Sang Park	单位: Seoul National University Bundang Hospital, Korea
14:20-14:30	主题: Chronic inflammation contributes to temporomandibular disc displacement via NF-κB pathway	发言嘉宾:	Xue-Dong Wang	单位: Peking University School & Hospital of Stomatology
14:30-14:40	主题: Macrophage activation in synovitis and osteoarthritis of temporomandibular joint and its relationship with the progression of synovitis and bone remodeling	发言嘉宾:	Hui-Min Li	单位: Wuhan University
14:40-14:50	主题: Vital Roles of Wnt/β-catenin in Differentiation of Gli1+ Stem Cells in Postnatal Condylar Cartilage	发言嘉宾:	Jie Wang	单位: Peking University School & Hospital of Stomatology
14:50-15:00	主题: A scRNA-Seq atlas reveals cell heterogeneity in mouse TMJ disc	发言嘉宾:	Xian-Ni Yang	单位: West China Hospital of Stomatology, Sichuan University

上記のような状況ではあったものの、日本顎関節学会から推薦された2名の先生（大阪歯科大学教授 島田明子先生、東北大学准教授 野上晋之介先生）の特別講演は、質疑も活発なものとなり、日本の臨床・研究の質の健在さをアピールしたものであった。



Keynote speech Akiko Shimada Keynote speaker Shinnosuke Nogami

また、他国からの特別講演の座長を、高橋哲先生が務められた。

今回の第7回アジア顎関節学会では、特別講演の他に、前述した口演セッション、さらには e-poster セッションが行われた。口演では私も発表させていただいた。

本学会名誉会員である村上賢一郎先生の第5回アジア顎関節学会報告（本学会ニュースレター#4）では、液晶スクリーンは2台のみでありやや不自由であったとのご報告であったが、今回の第7回大会では、6台ほど設置されており、改善されていた。



写真3 e-posterの様子 実際にはさらに2台ほど設置されていた。

また、会期中に、韓国、日本、中国、フィリピンの4か国の顎関節学会による International Committee Meeting（学会幹事会）が開催され、日本からは依田理事長の代理として高橋 前副理事長と、理事長の許可のもと Council member として私が出席させていただいた。

会では、次回の第8回アジア顎関節学会がフィリピンで2年後の2025年に開催されること、その後の学会が韓国、日本、中国、フィリピンの順の持ち回りで開催されること、現在 Chairman を務められている Dr. Hoon Chung が当面 Chair を継続することなどが議決された。



写真4 International Committee Meetingの様子



写真5 Committee Meeting 出席者

中央が Dr. Chung、左隣が Dr. Ma、右隣が高橋 前理事長

会議中に、このアジア顎関節学会は、本学会元会長である覚道先生、韓国の元会長である Dr. Chung、中国の元会長である Dr. Ma の3名で立ち上げられた話をお聞きすることができた。会の歴史を知る貴重な機会となった。

次回の第8回アジア顎関節学会は、2年後の2025年（日程は未定）フィリピンのマニラ市で開催される。前述した通り、中国と韓国の臨床・研究レベルの向上には目覚ましいものがある。私は高橋先生と共にもちろん再び参加しようと考えていますが、本会員の先生方にも積極的に参加していただき、日本の臨床・研究のアピールをしていただければ幸いに存じます。